

「家族を考える」

すずらん会

稲葉 定男

家族は、子供が出会う最初の社会であり、最小の単位である。生まれてきた子供は適切な世話を受け、愛情を持って、慈しまれることによって、育てられ、人となる。また、養育者は愛して育てることによって養育能力を獲得し、高め、親となっていく。親と子供が互いに信頼しあう関係性を育んでいく環境が、家庭であり、家族だ。家族が信頼しあう関係性ができてこそ、家族と呼べるであろう。家族が適切に機能してこそ、発達していくだろう。その後の人生に大きな影響を与えることは言うまでもないことである。家族の内部では夫婦、親子が愛情で結ばれており、外部社会との関係ではとした共同体です。グローバル化の津波に襲われたのち、家族変化は、①核家族化と単身者の増加、②共働き家庭の増加、③少子高齢化、の三点だろう。核家族化は今に始まったことではないが、戦前の5人世帯から、2005年では半減している。核家族の究極の行く末というべきところは単身世帯である。共稼ぎ家庭の増加は95年以降専業主婦家庭を大きく上回っているようになった。明らかに不況による収入の低下である。少子高齢化は産業構造の変化が教育の長期化を生んだ結果である。

医学の進歩などにより高齢化が表面化してきた。

これらの変化に加え、経済面では、貯蓄ゼロ世帯の増加。離婚率の増加。PCの普及。家庭内DVと児童虐待

の増加。介護保険の普及は、それぞれ司法、行政、介護という第三者が家庭の中に直接介入するようになったという意味では、家庭制度の大きな転換点といえよう。このような変化は、精神障害を取り巻く現場にも影を落とすことになった。今まで障害者介護は家族が支えてきた。(保護者制度・精神障害者だけにある制度)。家族の高齢化に伴い、これまでに支えてきた家族介護機能が低下するとともに、精神障害者ケアの担い手が消滅しかねない。今後は、アウトリーチなど行政・社会的に介護する機能が必須となるとともに、弱体化し不安に悩ませられている精神障害者家族に対しても支援が必要な幾山も越えなると行けない課題です。



「春の夢」

あおぞら会

石塚 祐之輔

だし抜けに

「お父さん、私Xさんと一緒に暮らす事にしたから」

「あゝそう？」

と聞き流しておいたが後日「あの件はいつからなの？」

すると娘は「結婚を前提とした同棲なら承諾するがそうでないならダメということと断りました」

と平然としている。あんなに一生懸命に「何か目標があり話相手がいって暮すなら、寝るだけじゃなくて料理もできるし、チャンと朝起き出来るヨ」

「生きがいを見つけて努力しなくちゃ」「私出来るヨ！」

「結婚すれば何でもするから！」

「なら結構だよ、お父さんは反対しないから、お父さんは大丈夫、心配いらぬから」と話していた。

まあそれもここ二〜三年の話ではあるが子供が生きがいを持てる暮らしができるなら、と願っている。

何とか前進したいが当事者が現状では何ともならず、今年も春を迎えてしまっている。

かくれんぼ

わかば会

L. ほんのかさん

チクタクチクタク 時の流れ

チクタクチクタク 止まる事はなく

も〜い〜か〜い・? まだだよ・?

いつの間にか 日が暮れた

チクタクチクタク あきらめようか

チクタクチクタク いえ もう一度

も〜い〜か〜い・? も〜い〜か〜い・? 何度読んでも 答えはない

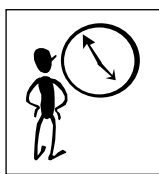
いつかは解けるよ 時の魔法

必ず見つけると 心に誓った

チクタクチクタク 時代はめぐり

チクタクチクタク 忘れかけていた

も〜い〜か〜い・? も〜い〜いよ・? 涙と笑顔 見〜つけた・? 見〜つけた



【短歌】

みどり会

井上 佐知子

百才の父は国家と県と市から
表彰状と記念品いただく

百才の父は浜松市長から
一服百笑のお茶を戴く

クッキーを砕いて庭にすずめ呼ぶ
父と母はあの世に逝けり

幼児を2人連れて引揚げを
母は涙で語りときれる

音楽を聞くと昔を思い出す
父と二人で見た映画のこと

雨の中の錦帯橋を渡り行く
うねうねうねる白蛇に会う

世の中は悲しいことが多すぎる
なでしこ達に「元気もらおう



陽のぬくもり

白梅会 T・Eさん

朝日と夕日

それは自然の持つている

最も心が躍るような

情緒だね

まるで生きる

ということが

凝縮されて

いるみたいだ

朝日は

僕らの目をさまし

夕日は

一日の感情が

未来への希望に

つながるようだ

その陽の

眩しいくらいの

温もりの下で

感じる事が出来ない

大切な命を

僕らは陽のように当たり前に

けれどもいつも等しく

与えられているんだね



【俳句】

すずらん会 H・Sさん

・漁師大根は
あふう熱き口の中

・入院を
明日に控えて冬うらら

・冬の午後
被爆ピアノは胸こがす

・コンビニの
おむすびつめて冬の旅

・病院の
ガラス窓にも木の葉舞う

・初診日に
迷う院内冬の雨

・冬紅葉
黄金に光り歩道埋め

・からからと
逃げる落ち葉に戯れる猫

・風吹いて
落葉の上に落葉かな

・掃き寄せた
落葉を狙うっぴんじ風

